

平成 30 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 名東福社会

目 次

名東福祉会の理念	2
事業機構	4
利用者の状況	6
デイケア事業	11
メイトウ・ワークス	
天白ワークス	
はまなす	
レジデンス日進	
ナイトケア事業	21
相談支援事業	24
サービス品質の向上を目指した取り組み	31
決算報告	35
施設・事業所一覧	

名東福祉会の理念

【法人の理念】

利用者の思いを確かなものにする

優しい気持ちになりたい ～ホスピタリティ・マインドを意識して～

- 笑顔で接する
- ありのままを引き受ける
- 気持ちに寄り添う
- 思いを想像する
- 真摯である

【法人のミッション】 「やりたいこと」「やらねばならぬこと」

自己決定を支援すること（意思決定支援）により、 利用者および利用者支援に関わる全ての人々に安心感を与える

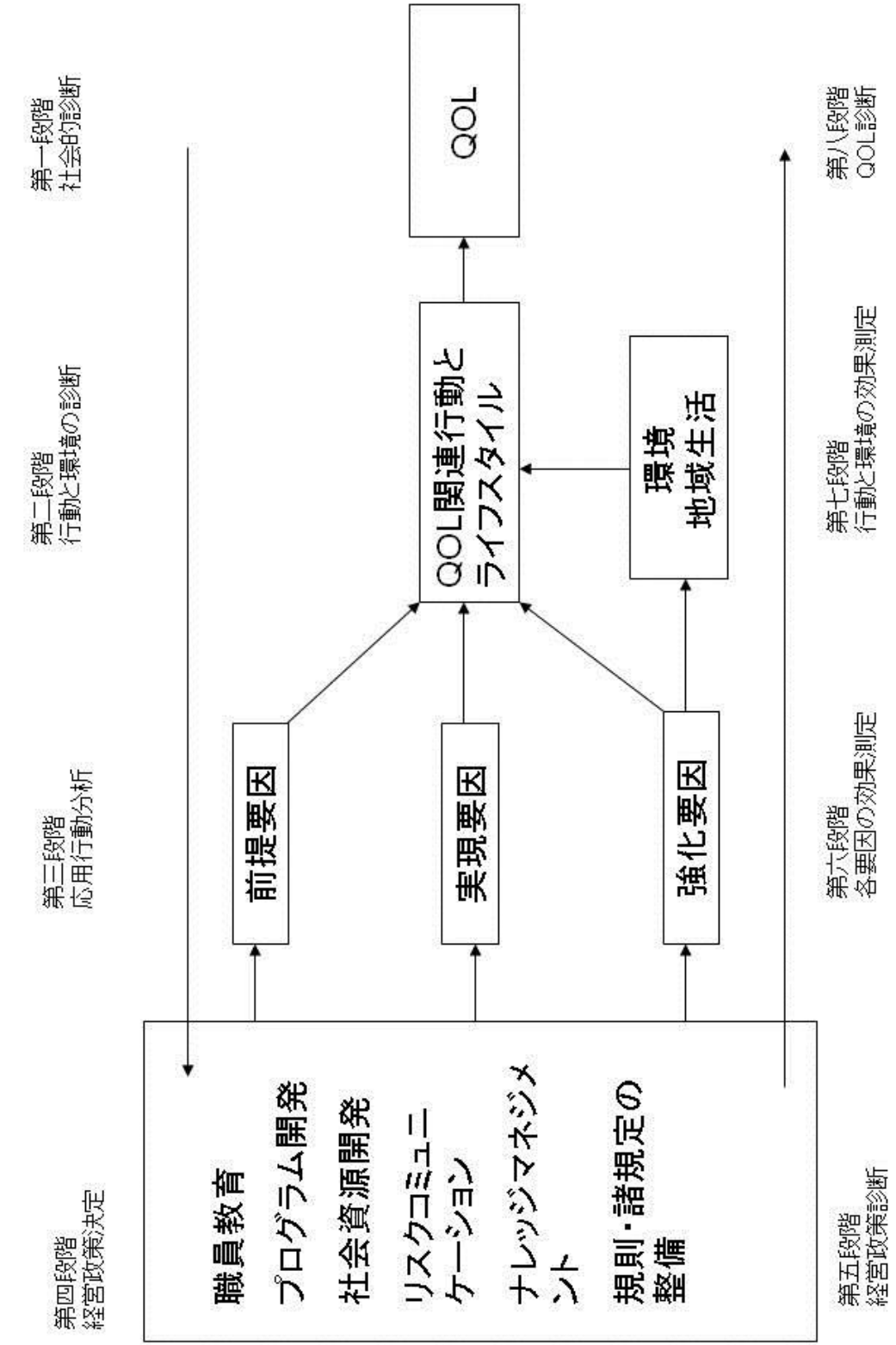
- ・利用者が **安心** して利用したい
- ・職員が **安心** して働きたい
- ・ボランティアが **安心** して参加したい
- ・理事会・評議員会が **安心** して経営参加したい
- ・後援会が **安心** して協力したい
- ・地域の方々が **安心** して任せたい

【法人のビジョン】 「ありたい姿」「あらねばならない姿」

“やりがい”を感じられる活動と、“安全”で“快適”な暮らしを提供する。

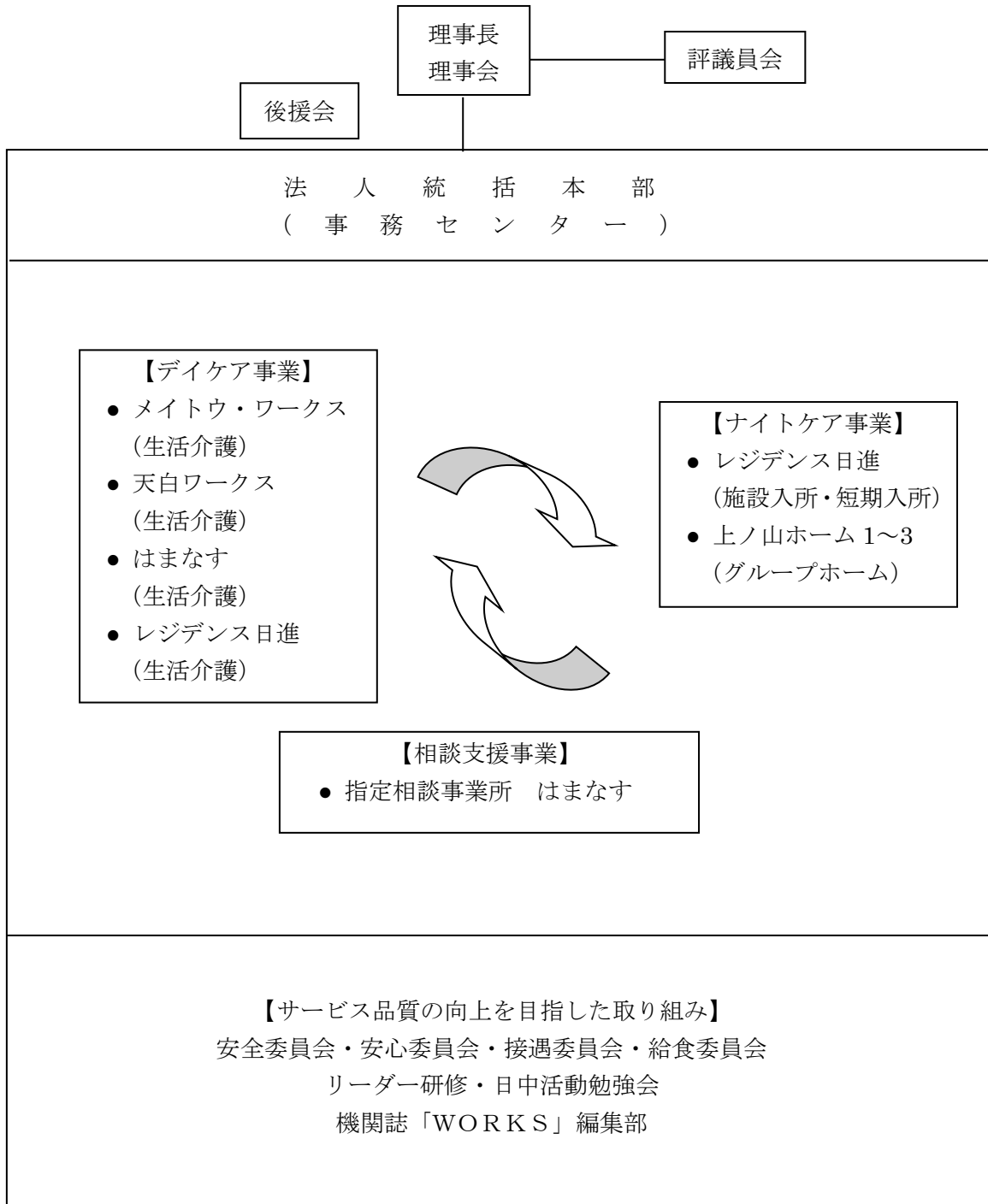
- ・障害の重さを個性として理解する
- ・利用者の意思を尊重する
- ・ひとりひとりの望みに合わせた生活を実現する
- ・人とのかかわりを大切にする
- ・生活環境を整備する
- ・社会とつながる活動を大切にする
- ・働くこと（生産活動）を支援する
- ・地域との交流を大切にする
- ・利用者や支援者の健康に配慮する
- ・支援の質を向上させ、地域に貢献できるよう努力する

利用者のクオリティ・オブ・ライフの改善モデル



事業機構

1. 機構図



2. 職員構成（平成 31 年 4 月 1 日 現在・計 87 名）

	本部長	事務員	管理者	支援員 相談員		看護師	栄養士	医 師
				男	女			
法人全体	1	5	4(2)	29	44	2	1	1
メイトウ・ワークス			1	2	6	(1)		(1)
天白ワークス			1	4	7	(1)		(1)
はまなす			1	3	6	(1)		(1)
レジデンス日進			(1)	20	24	1	1	(1)
上ノ山ホーム			(1)					(1)
指定相談はまなす			1	(1)	1			

* レジデンス日進の支援員および栄養士、また看護師は、常勤換算前の実人数

* () は兼務

利用者の状況

(平成 31 年 4 月 1 日 現在)

名東福祉会は現在、155 名以上の方々から利用契約をいただき、名古屋東部地域を中心に、障害福祉サービスの提供を行っています。継続的に、デイケアおよびナイトケア事業を利用されている方が 152 名（うち、25 名が両事業を重複利用）、短期入所や日中一時支援事業等の今年度の利用者が 31 名（うち、26 名が法人デイケア事業も利用）で、グループホーム利用者の中には、就労している方も 3 名みえます。

障害のある方々の生活をトータルに支援できるよう、事業所間の連携を強化して利用者のニーズに応じていきたいと考えています。

1. 年齢分布

	～19歳		20歳～		25歳～		30歳～		40歳～		50歳～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス			2	1		2	3	5	7	4	5	1	30
天白ワークス			1	1	3	1	7	3	4	4	5	3	32
はまなす	1		2	1	4		3	3	6	3	1		24
レジデンス日進			1				3	6	11	6	6	7	40
上ノ山ホーム							5	1	5	3	7	5	26
法人全体	1	0	6	3	7	3	21	18	33	20	24	16	152
	1		9		10		39		53		40		

2. 居住（出身）地分布

(1) 名古屋市分

	名古屋市												
	名東	天白	緑	千種	昭和	守山	瑞穂	中村	中川	南	港	中	東
メイトウ・ワークス	22					2			2				1
天白ワークス	2	12	4		3	1			1	1			
はまなす	17	3		1	2	1							
レジデンス日進	8	8	5	1		2	1	1	1	1	1	1	
上ノ山ホーム	4	7		1	3	1	1	1		2			
法人全体	53	30	9	3	8	7	2	2	4	4	1	1	1

(2) 名古屋市外分

	名古屋市外						小計	市内小計	合計
	日進	春日井	尾張旭	瀬戸	江南	他県内			
メイトウ・ワークス	2					1	3	27	30
天白ワークス	8						8	24	32
はまなす								24	24
レジデンス日進	6		1	1	1	1	10	30	40
上ノ山ホーム	1	1	1	1		2	6	20	26
法人全体	17	1	2	2	1	4	27	125	152

3. 障害の程度：障害支援区分認定結果

	1		2		3		4		5		6		計 (平均)
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス			2		2	4	7	6	2	1	4	2	30(4.5)
天白ワークス					3	2	6	2	6	3	5	5	32(4.8)
はまなす					1		5	1	7	1	4	5	24(5.1)
レジデンス日進							4	1	5	5	12	13	40(5.5)
上ノ山ホーム			1	1	3	2	7	3	5	3		1	26(4.0)
法人全体			4	1	9	8	29	13	25	13	24	26	152(4.7)
			5		17		42		38		50		

4. 障害の種別

(1) 主たる障害

	広汎性発達障害		ダウン症		知的障害		重症心身		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス	9	5	1	3	7	5			30
天白ワークス	10	4	5	1	5	7			32
はまなす	9	2	4	2	4	2		1	24
レジデンス日進	13	7	1	2	6	8	1	2	40
上ノ山ホーム	7	5	2		8	4			26
法人全体	48	23	13	8	30	26	1	3	152
	71		21		56		4		

(2) 重複障害

	肢体		視覚		聴覚		内部		精神		延計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス		1			1		1	2			5
天白ワークス	1	3			1		1				6
はまなす		2		1				1			4
レジデンス日進	3	3				1					7
上ノ山ホーム					1	1			2		4
法人全体	4	9		1	3	2	2	3	2		26
	13		1		5		5		2		

5. 利用期間

	～1年		1年～		3年～		5年～		10年～		15年～		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
メイトウ・ワークス		1	1		1	1	1	2	5	3	9	6	30
天白ワークス			1		1	1	4	2	9	1	5	8	32
はまなす	1	1	1	1			2		5	2	8	3	24
レジデンス日進		1	1	1		1	5	6	2		13	10	40
上ノ山ホーム	1						10	9	6				26
法人全体	2	3	4	2	2	3	22	19	27	6	35	27	152
	5		6		5		41		33		62		

6. 月別平均利用者数

	定員	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス	37	30	29.2	28.8	29.2	28.3	26.7
天白ワークス	35	32.7	32.6	32.2	31.7	31.9	31.6
はまなす	25	21.4	22.1	21.8	21.5	21.1	20.1
レジデンス日進	40	37.1	36.5	37.2	36.7	36.4	37.1
上ノ山ホーム	27	25.3	24.9	25.2	25.8	24.5	25.4

10月	11月	12月	1月	2月	3月
27.2	26.5	27.1	25.9	27.2	25.2
31.9	32.1	32.2	31.5	31.2	28.9
21.3	21.7	21.6	20.9	20.8	21.2
38.0	38.2	36.4	35.0	36.8	37.1
26.3	26.1	25.2	24.3	25.1	24.9

今年度平均	前年度平均	
27.6	29.3	メイトウ
31.7	32.3	天白W
21.3	22.2	はまなす
36.9	36.8	レジデンス
25.3	25.3	上ノ山H

7. 短期入所事業利用者数：レジデンス日進・定員7名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
113	110	124	115	95	68	73	84	89	76	80	86	1113

8. 日中一時支援事業利用者数：レジデンス日進・定員7名

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
8	9	13	10	16	12	12	14	12	14	11	15	146

* 日中一時契約市町村：名古屋市・日進市・長久手町・尾張旭市

9. 通所施設時間延長サービス利用者数（16：00～17：00）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
メイトウ・ワークス						
天白ワークス	1					
はまなす	12	14	13	13	12	12
法人全体	13	14	13	13	12	12

10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
						0	メイトウ・ワークス
1				3	2	7	天白ワークス
15	11	12	12	14	13	153	はまなす
16	11	12	12	17	15	160	法人全体

デイケア事業

名東福祉会は、昭和 57 年にメイトウ・ワークスを開所して以来、質の高い日中プログラムの提供を目指してきました。

人の暮らしの質を考える場合、やはり日中の過ごし方の重要性は第一と言えます。施策や制度の動向を踏まえながら、利用者のニーズに基くサービス提供の姿勢を保ち、多様な選択肢をご提案していきたいと考えています。

メイトウ・ワークス

家族会のご協力により、施設 1 階のトイレの改修と、2 階にトイレを増設することができた。これまで 2 階を利用していた利用者は、毎回 1 階までトイレに移動しなければならなかったが、今回の増設により移動の負担が解消された。

また、就労継続支援 B 型事業の廃止と、生活介護事業の定員増の準備を進め、平成 31 年 3 月 31 日に就労継続支援事業を廃止し、平成 31 年 4 月 1 日に、生活介護事業の定員増の認可を受けた。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況 (単位：円)

	陶芸	縫製	下請他	計
平成 30 年度	866,029	262,616	790,562	1,919,207
平成 29 年度	338,288	1,499,322	321,250	2,158,861

(2) 作業内容

● 下請け作業

部品の組み立て、袋詰め、仕分け作業など、作業工程を細分化し、利用者の特性に合わせた作業を提供できるようにしている。

● 陶芸作業

動物はし置き、季節の人形、お皿などの小物陶器を製作。土に触れる、型抜き、成形、素焼きの絵付け、焼成後の仕上げなどを行った。

● 縫製作業

変身ぬいぐるみの製作。全国の保育所や子育てサークルから注文を受けている。作業工程が多く、能力に合わせた作業がある。生産量を調整し、注文に応じて作成した。

(3) 利用者給与支給状況

	工賃総額	一人当たり平均 (賞与含)
就労継続 B 型	741,590 円	92,699 円/年
生活介護	817,350 円	30,272 円/年

(4) レクリエーションプログラム・イベント

レクリエーションプログラムは生活介護を中心に行った。交流行事は施設全体で行った。

- リラクゼーションプログラム
- 創作活動
- グループハイク
- 音楽活動
- 全体行事

- ・クリスマス会（ポケットの会）
- ・豆まき企画（めいとう朗読会）
- ・家族会ボランティア交流会
- ・あそび広場（高針北保育園交流）
- ・書初め大会
- ・成人式

（5）地域交流

年間を通してボランティア様に来所いただき、作業やイベントを通して、利用者との関わりを深めている。

- ・高針北保育園「あそびひろば」に招待参加
- ・クリスマス会に園児さんを招待
- ・名東の日（区民まつり）
- ・平和の丘春まつり
- ・めいとう福祉まつり
- ・名東保健所主催のエコフェスタ
- ・コミュニティーセンターの行事

（6）地域貢献

- ・隣接するコミュニティーセンターと連帯して、地域のイベントを行った。
- ・駐車場を南自動車図書館（あおぞら号）の巡回ポイントとして利用いただいた。
- ・隣接する保育園の送迎時間帯に駐車場をお貸しして、路上駐車軽減に貢献した。
- ・地域の中学生の福祉体験や職場体験を行った。
- ・大学生の介護体験や名古屋市職員の新人研修など随時受け入れた。

2. 就労継続支援B型事業

通所による就労や生産活動の機会を提供している。陶芸や縫製作業、下請作業など高品質の製品を製作し、作業の準備から納品まで自主的に行動できるよう支援した。

研修の機会として工場見学を実施した。隔週で利用者会議を行い、作業やスケジュールなど利用者同士で確認している。

3. 生活介護事業

作業を中心とした活動を行うことで、社会参加と日中生活が安定するよう支援した。

余暇支援として、音楽活動、季節行事、グループハイクなどを行った。

また、リラクゼーションプログラムとして、足湯やアロマセラピーなど行った。

天白ワークス

30年度は、地域のバザーなどに出店し、天白ワークスの製品を周知していただくことができた。少しではあるが、店舗の方にも来ていただき、クッキーや陶芸製品を買っていかれる方もみえた。大きな陶壁の注文もいただいた。

また、展示会への出品にも力を入れ、幅広く作品にも好評価をいただいた。

31年度の就労継続B型の廃止、生活介護への一本化に向けてもスムーズに移行の手続きが取れた。

今後は、生活介護事業所として、個々の利用者のニーズに合った内容になるよう、各プログラムの充実を図っていきたい。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況（単位：円）

	陶 芸	焼き菓子	精 米	下請け他	計
平成 30 年度	1,396,617	1,576,165	0	963,842	3,936,624
平成 29 年度	1,022,159	1,727,858	0	968,953	3,718,970

(2) 作業内容

- 陶芸

食器(コップ・皿)、置物、マグネット等を製作。形成、水拭き、絵付け・釉掛け、仕上げを行った。

- 焼き菓子

クッキー・パウンドケーキ等の焼き菓子を手作りで製造し販売した。材料の準備、計量、生地づくり、成形、袋詰め、包装の工程を、利用者が役割分担した。

- 精米

30年度は休業した。

- 下請け

部品の組み立て、製品の袋詰め等、工程がわかりやすい作業を行った。作業工程を細分化・構造化することで、多くの利用者が参加した。

(3) 利用者給与支給状況

	工賃総額	一人当たり平均（賞与含）
就労継続 B 型	950,470 円	105,608 円／年
生活介護	843,830 円	33,753 円／年

(4) レクリエーションプログラム・イベント

生活介護を中心に行っているが、グループハイク・交流会・クリスマス会は、就労継続B型の利用者も話し合いによって参加を決めた。

- グループハイク
グループ別に場所や内容を選んで参加した。
- 音楽療法
月2回、講師によるミュージックケア。2グループに分けて利用した。
- 家族交流会
利用者・家族・ボランティア・職員の交流を目的に実施。今年度はなばなの里へ出掛け、食事・散策を楽しみながら親睦を深めた。
- クリスマス会
ゴスペルグループによるクリスマスコンサート。
- スポーツ大会
ソフトボール大会、フットベースボール大会に参加した。

(5) 地域交流

- ・ あげぼの学園祭り
- ・ マーガレット・マルシェ
- ・ 天白区かおの見えるアート展
- ・ 近隣にお住いのボランティアさんが活動の可能な日・時間で参加いただいている。

(6) 地域貢献

教職課程履修の大学生の介護体験実習

2. 就労継続支援B型事業

作業することで、自分の仕事が給与となることを意識して頂けるように支援を行った。その一環として工賃日に自分の工賃袋を持って外出に出かけた。今年度も外出よりも自分が欲しいものに給与を使いたい、と外出に参加されない方もいらっしゃる、お金に対する意識が高まったことを感じた。

工賃には評価給を導入し、正確に、継続的に作業することの意味や、他の利用者と協力することの大切さを意識していただけるよう支援した。

月1回の会議で仕事、対人関係や余暇活動等の日程や参加を話し合いで決めた。(利用者が司会・記録を務めている)。

3. 生活介護事業

利用者の個々の特性に合わせ、グループ別に作業を提供した。

作業を通じて社会とつながり、貢献していくことを目指した。

健康支援としてウォーキングを行なった。また、リフレッシュプログラムとして、お花見・初詣に出掛けた。

陶器・焼き菓子の製品を喫茶店で利用販売し、施設の紹介に努めた。

マーガレット・マルシェでは、職員とともに利用者(焼き菓子の店ロト)も一緒に販売に加わり、直接、お客様とのやり取りを学んだ。

はまなす

今年度も、午前は作業プログラム（下請作業等）を、午後はレクリエーションを主体とした活動を行った。レクリエーションにおいては、曜日を固定して出来たため、利用者が見通しを持って取り組むことができた。

今後も、現状の作業量の確保と、レクリエーションの内容の向上を目指して、利用者全員に満足していただけるプログラムを、工夫しながら設定していきたい。

生活介護事業

(1) 作業種目と年間売上状況（単位：円）

	下 請	雑収益	計
平成 30 年度	129,422	233,467	362,889
平成 29 年度	154,545		

(2) 作業内容

ナット・ワッシャーの袋詰め、ボルトのナット止め、ポケットティッシュの包装等。

(3) 利用者給与支給状況

	工賃総額	一人当たり平均（賞与含）
生活介護	137,500 円	5,729 円／年

(4) レクリエーションプログラム・イベント

● 散歩

公用車を使用して近隣の公園や公共施設へ出かけ、散歩、散策を行った。気分転換、健康増進、一般の方々との交流などを目的に、午前、午後とメンバーを替え実施した。

● 通常のレクリエーション

毎日、午後の時間帯に月曜日陶芸、火曜日足湯、水曜日カラオケ、木曜日創作、金曜日身体活動、毎月 1 回、水曜日に音楽療法士山本先生による音楽活動、3 カ月に 1 回のお菓子作りを行った。利用者の参加の定着ができてきた。

● ソフトボール大会への参加

4 月に小幡緑地西園球技場において、天白ワークス、レジデンス日進との合同チームで大会に参加し優勝した。10 月は雨のため大会が中止になった。

● スポーツ大会

11 月 30 日（金）午後より、名古屋市障害者スポーツセンター体育室において、家族会と合同で小運動会を行い、家族会やボランティアとの交流を深めた。

● プール活動

7 月から 9 月にかけて小グループにて、名古屋市障害者スポーツセンター室内プールを利用した。

- 夏まつり
8月9日(木)の午後から、ビンゴゲームや軽食などで楽しんだ。
- グループハイク
5~6月と9月、10月の2回、小グループによる日帰り旅行を実施した。1回目は、明治村、竹島水族館、名古屋港水族館、げんきの郷、2回目は、もくもくファーム、アクアトトぎふ、南知多ビーチランド、刈谷ハイウェイオアシスに出掛けた。年に3回を予定していたが、3回目が都合によりできなかった。
- フットベースボール大会への参加
10月19日(金)にテラスポ鶴舞ウエストグラウンドにおいて、天白ワークスとの合同チームで大会に参加した。
- クリスマス会
12月26日(水)午後から、音楽活動と共に楽しんだ。

(5) 地域貢献

- 5月27日(日)・11月18日(日) 高針台一丁目町内会一斉清掃
- 8月 極楽学区盆踊り大会協賛金協力
- 10月 秋の祭礼「たかほくまつり」へバザー品を提供協力

また、区内中学生の福祉体験、職場体験等の受入れや、名古屋市新規採用職員研修や、ホームヘルパー実習及び大学・専門学校からの教員免許介護体験等の学生実習も随時受入れた。

レジデンス日進

生活介護事業については、特に後半は「常に介護を必要とする方に対して、主に昼間において、入浴・排せつ・食事等の介護、調理・洗濯・掃除等の家事、生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動・生産活動の機会の提供の他、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行います。」という生活介護事業の目的を意識し、生産活動以外の活動を取り入れ、次年度の生活介護一本化に向けての準備をおこなった。

就労継続支援 B 型事業においては、生活介護移行後も生産活動をおこなうことから、安定的に作業を提供することができ、前年度並みの工賃を支給することができた。

健康面においては、健康診断、体重測定等の結果からウォーキングを中心とした運動プログラムを継続して実施することができた。

1. 各事業共通

(1) 作業種目と年間売上状況（単位：円）

	下請他	雑収益	計
平成 30 年度	1,352,303	240,267	1,592,570
平成 29 年度	1,333,220		

(2) 作業内容

施設近隣の会社からの下請け作業（自動車部品の組立て、ガス器具の部品組立、水洗トイレの部品組立など）を主な作業（生産活動）として提供した。

(3) 利用者給与支給状況

	工賃総額	一人当たり平均（賞与含）
就労継続 B 型	950,720 円	118,840 円／年
生活介護	422,320 円	14,077 円／年

(4) レクリエーションプログラム・イベント

レクリエーションプログラムは生活介護を中心におこなっているが、大きなイベントに関しては、就労継続 B 型の利用者にも参加してもらっている。特にイベントについては、季節感のある行事を意識して実施することができた。

● 季節行事

- お花見：生活介護のみ。レジデンス日進前の桜を鑑賞した。
- はるまつり：レジデンス日進・上ノ山ホームの休日余暇としての位置付け。基本的に親子での参加形態をとり、午前中は上ノ山の竹林でたけのこ掘りをおこない、午後からはご家族と職員の交流会『しゃべり場』を実施した。

- 流しそうめん：生活介護のみ。七夕を意識して、昼食としてそうめんを味わった。
- なつまつり：日中は生活介護のみ。花火は、ナイトケア事業の余暇支援として位置付け。午後からスイカ割りとかき氷、夕食後は花火を楽しんだ。
- バスハイク：生活介護・就労継続 B 型共通。2 グループに分かれ、観光バスを利用して「はままつフラワーパーク」「伊勢神宮とおかげ横丁」に出掛けた。
- あきまつり：レジデンス日進・上ノ山ホームの休日余暇としての位置付け。基本的に親子での参加形態をとり、模擬店、ゲーム、ステージ企画を楽しんだ。
- クリスマス会：生活介護のみ。ケーキ作りをおこなった。また家族会にはサンタ役として協力いただいた。
- 初詣：生活介護・就労継続 B 型共通。地域の神社に出掛けた。
- 節分：生活介護のみ。職員が鬼となって豆まきをおこなった。

● スポーツイベント

- ソフトボール大会：生活介護・就労継続 B 型共通。4 月に法人合同チーム（天白ワークス・はまなす）でソフトボール大会に参加した（※10 月は大会中止、合同練習のみ行なう）。
- ゴルフ観戦：主催者から招待があり、中京テレビ・ブリヂストンレディーズオープンを観戦した。

● その他

- 毎月、第 2 金曜日に言語聴覚士でもあり、障害児・者に和太鼓の指導をされている先生に来ていただき、太鼓の音、響きを体感することができた。
- 第 4 金曜日に音楽療法の講師に来ていただき、楽器に触れる、身体を動かすなどの音楽活動を楽しんだ。
- 第 2、4 火曜日に、訓練を受けたセラピー犬を連れて来ていただき、動物と触れ合うことで癒しの空間を提供した。

(5) 地域交流

- ・はるまつりでは、近隣の喫茶店にお花見弁当を注文した。
- ・ゆったり工房あじさいコンサート（日進市内の他事業所主催に協賛）に参加した。
- ・日進市チャレンジド夏祭りに出店した。
- ・にしん市民まつりに出店した。
- ・あきまつりでは、地域との交流を目的として、地元のお囃子保存会の方々、老人クラブの方々もお招きした。
- ・日進市の障害者団体連絡会主催のクリスマス会（法人嘱託医中心のドクターズバンドのコンサート）に参加した。
- ・毎月 10 日に就労継続 B 型の人たちで近隣の中華料理店に昼食に出掛けた。

(6) 地域貢献

- ・近隣の大学・専門学校からの保育士実習の受入れをおこなった。（4 回、8 名）
- ・隣接した学童保育所「にしっこクラブ」の子供たちに、なつまつりに参加していただ

いた。

- ・隣接した学童保育所、動作法訓練会（つばさの会）、子育て支援グループ、昭和区日曜学校、地域の市民グループに「デイサービス 2 階」及び「地域交流スペース」を活動場所として提供した。

2. 就労継続支援 B 型事業

日進市上ノ山の作業棟において下請けを中心とした作業提供をおこなった。特に複数の業者から仕事を受け負うことで、ひとりひとりにあった作業を提供できるよう調整した。

工賃に関しては、作業の質・量を評価することで、毎月の工賃、年 2 回の賞与を個人の作業能力に応じて支給することができた。

3. 生活介護事業

自閉傾向の方を中心に構成されているデイサービス 1 階での活動は、就労継続支援 B 型の作業を取り入れることはできたが、長時間取り組むことはむずかしい。「自立課題」の検討、「散歩」を取り入れるなどの検討を始めている。

変化に柔軟に対応できる方が中心となっているデイサービス 2 階においては、作業提供と和太鼓・音楽療法・アニマルセラピー、アート活動といった外部の方の協力を得たプログラムを継続して提供することで、風通しの良い活気ある雰囲気をつくることができた。

また、健康を意識して、公園での散歩、音楽に合わせたウォーキングを積極的に取り入れることができた。

* 参 考

H30 年度	メイトウ・ワークス	天 白 ワークス	はまなす	レジデンス 日 進	法人全体
陶 芸	866,029	1,396,617			2,262,646
縫 製	262,616				262,616
焼き菓子		1,576,165			1,576,165
精 米					
下請け他	790,562	963,842	362,889	1,592,570	3,709,863
計	1,919,207	3,936,624	362,889	1,592,570	7,811,290

H29 年度	2,158,861	3,718,970	154,545	1,333,220	7,365,596
H28 年度	2,332,674	3,017,411	139,640	1,358,689	6,848,414
H27 年度	2,546,322	3,251,406	112,378	1,378,760	7,288,866

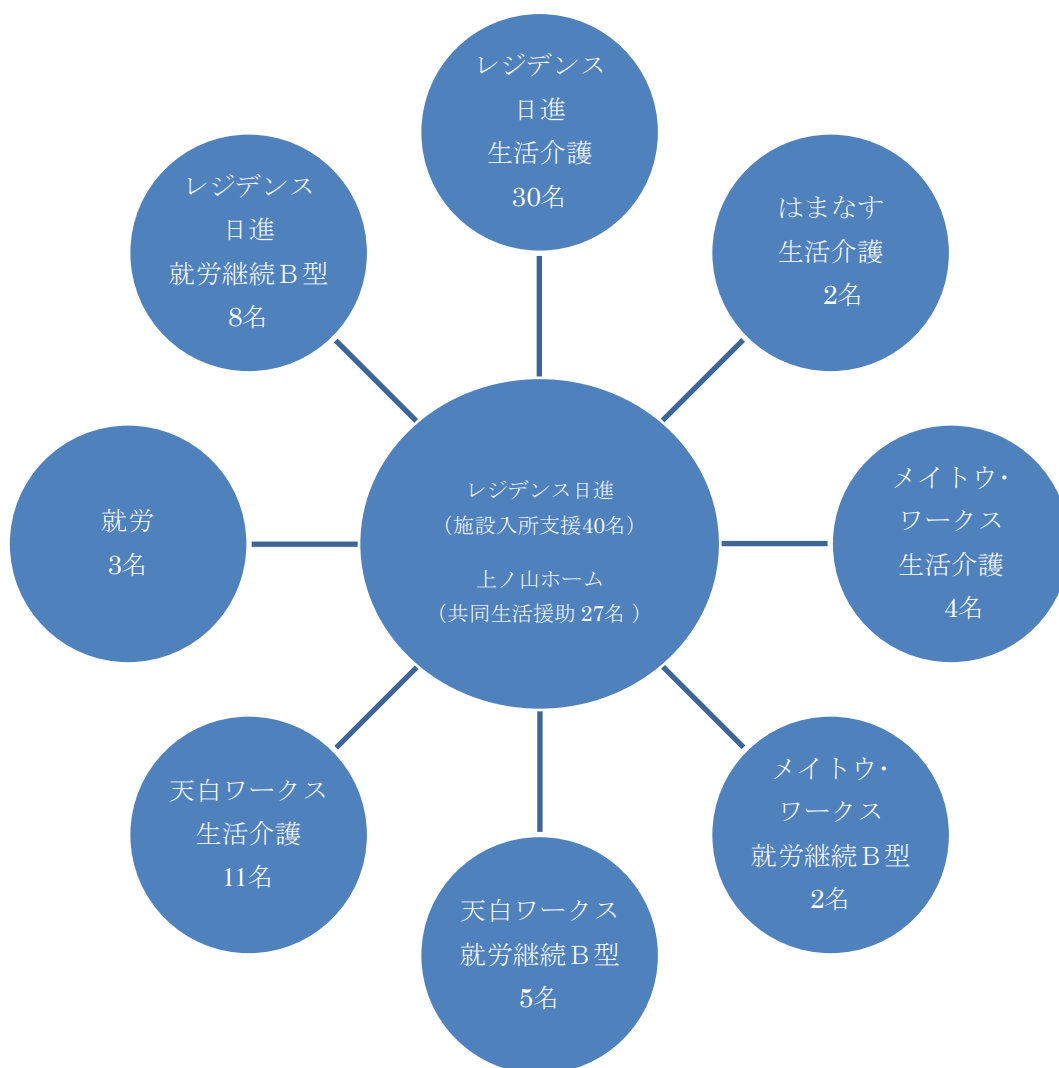
ナイトケア事業

名東福社会では、レジデンス日進を生活支援の拠点として、グループホームを展開しています。レジデンス日進の4つのユニットに加えて、上ノ山ホームもユニットとして考え、ナイトケアのノウハウを活かすことで、安定したサービス提供を図ります。

今後、ナイトケア事業への期待は高まるばかりですので、健康で快適な生活の場を提供できる支援体制を創造していきます。

1. 生活の場と日中活動の場の連携

施設入所支援においても、他事業所を利用できるよう支援することがレジデンス日進の大きな特色である。利用者の方々に安心して生活していただくためには、日中活動事業所との連携が不可欠であることから、利用者個々の様子・健康面等での伝達事項を積極的に共有するよう努めた。



(※上図は平成30年度)

2. ナイトケア事業間の連携

施設入所支援及び共同生活援助を「ナイトケア事業」として位置づけ、職員配置、勤務割り等を一体化して管理体制を維持することができた。また、法人の通所事業所の職員による夕方からの、生活支援（夕食・入浴など）を中心としたバックアップについても継続して協力を得ることができた。

3. ユニット単位の支援

レジデンス日進（施設入所支援）は1ユニット10名程度のユニット単位での生活支援を基盤とし、上ノ山ホームも同様に1住居（ユニット）9名での生活支援を基盤として、完全個室での個別対応による利用者の生活の安定を図った。

特に、入浴は、各ユニット（住居）に浴槽2箇所設置しており、毎日、個別に入浴するスタイルも継続実施できた。また、共有スペースには、テレビ、テーブル、椅子等を配置して、朝夕の食事はもとより利用者がくつろげる空間として提供した。

4. 健康管理

レジデンス日進及び上ノ山ホームの、ナイトケア事業所における健康管理の重要性を踏まえ、看護師が中心となり、現場支援員との連携を図りながら取り組んでいる。

年2回の定期健康診断を実施。個々の状態により毎日・毎週の体重・血圧測定を実施。又、訪問歯科検診、インフルエンザ予防接種を実施した。

生活習慣病予防対策として、対象利用者は、毎朝（休日は除く）及び午後からの時間を利用して30分間のウォーキングを実施した。

感染症対策（発症時の対応マニュアル整備）、通院支援として体調不良の利用者の早めの医療機関への受診、精神科、歯科、眼科、皮膚科への受診も継続支援できた。往診（月2回）を含め嘱託医を中心とした地域医療機関との連携に留意した。

利用者個別の「体調シート」を作成し、利用者の毎日の体調および傷や怪我の位置（入浴時にチェック）、状況を記入し、状態の把握・共有を図り、適切な支援・介護に努めた。

また、夜間帯には、緊急対応マニュアル（てんかん発作時の個別対応シート含む）を各ユニットに設置し、緊急時には6名の職員が連携し、より早く対応できるよう努めた。

5. 防災対策

専門業者による消防設備点検、災害時用の備蓄（7日分）、緊急マニュアルの整備、避難誘導訓練（隔月）をおこなった。

6. 金銭等の管理

利用者の財産管理について、「施設利用者の年金等取扱要領」に従い、適正・確実を旨としておこなった。また、年金及び現金管理をしている利用者には、行政等の手続きの代行、年金管理を家族・後見人等に任せている利用者には、現金のみ事業所が預かって管理した。

7. 季節行事

ナイトケア事業の季節行事として、花火大会（なつまつり）、年始の餅つきをレジデンス日進・上ノ山ホーム合同で実施した。レジデンス日進単独としては、クリスマス会を実施した。その他の行事（はるまつり、あきまつり、バスハイク等）は、日中活動と連動させた形でおこなった。給食では年末・年始、節分・ひなまつり・端午の節句など時季に合わせた献立を考慮して提供した。

相談支援事業

名東福社会は発足当初から、療育支援事業等を通じて、地域にお住まいの障害のある方々の生活を支える取り組みにも力を入れてきました。当事者の意向に沿った地域生活支援の重要性は増すばかりですし、そのためのネットワークの構築は必須です。

そんな中、名東区障害者基幹相談支援センターは、総合相談や地域づくりといった、地域生活支援の拠点機能を担ってきました。

また、はまなすには指定特定相談支援事業所を併設し、計画相談の提供を行っています。計画相談、障害児相談の契約者は、両事業所で160名となります。

名東区障害者基幹相談支援センターきふね

1. 相談業務

(1) 相談受付の状況

平成30年度に受けた相談で、相談受付票作成分は以下の通りである（軽微な問い合わせ等は含まれていない）。前年度と比べ、相談者数や傾向等に大きな変化はない。

乳幼児期に発達の遅れを指摘されながら、障害者手帳を取得せずに生活してきたが、思春期に入って生活課題が顕著となり、改めて手帳取得の是非について本人や家族が悩み、相談につながるケースが目立っている印象である。抱えている課題自体も既存の障害福祉サービスには当てはまらないことが多く、今後、検討を要する。

【居 所】

	名東区	千種区	天白区	守山区	東区	南区
相談者数	120	1	1	1	1	1

豊田市	横浜市	岐阜県	兵庫県	計
1	1	1	1	129

【年齢・性別】

	児童（～17歳）	成人（18歳～）	計
男	7	55	62
女	3	50	53
性別不詳	2	12	14
小計	12	117	129

【障害別（複数カウント）】

種 別	身体	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳機能	不明・無手帳
相談者数	63	3	41	33	10	1	24

【相談内容（複数カウント）】

	サービス利用	障害・症状の理解	健康・医療	不安解消・情緒安定	保育・教育	家族関係・人間関係
相談件数	104	18	45	34	10	60

家計・経済	生活技術	就労	社会参加・余暇活動	権利擁護	その他
40	33	28	24	11	58

(2) 月別実績

前年度に比べ、外来相談が1.5倍以上、認定調査が1.3倍以上増えている。

認定調査対象者中の高齢者の占める割合が高いことも変わりはなく、高齢分野との連携の必要性は高まるばかりである。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	訪問	42	33	29	41	36	32	30	27	24	35	37	40	406
	外来	114	92	102	96	102	80	82	106	93	91	97	37	1092
認定調査		30	30	30	35	30	25	38	36	30	22	24	18	348
配食アセス		0	1	3	1	0	2	7	1	4	2	2	4	27
計画相談	案	1	1	2	0	2	6	3	2	1	4	2	1	25
	計画	1	1	1	5	1	5	2	2	1	1	0	1	21
	モニタ	5	3	6	2	3	4	2	1	5	2	2	4	39

2. 名東区障害者自立支援連絡協議会

障害者自立支援連絡協議会は、地域で暮らす障害のある方々や、そのご家族の抱える生活課題を、地域の様々な立場の方々が協働することによって解決していこう、という仕組みである。名東区では、区福祉課・保健所・基幹相談支援センターが事務局となり、当事者団体や事業者の代表、社会福祉協議会で構成している。

全市で支援者不足が課題となっているが、有効な解決策を見出すことができていない。協議会立ち上げ後、丸12年が経ち、地域課題の解決に向けた取り組み、仕組みの再考が求められていると思われる。

	開催数	主な内容
全体会	4回	各部会の集約・地域課題の確認、検討・制度動向
事務局会議	11回	協議会運営・計画相談の状況・制度動向・事例検討
まもる部会	11回	差別解消・障害特性理解・意思決定支援・事例共有
しる部会	11回	支援者のつながり・余暇支援
うごく部会	9回	移動の支援・ヘルパー事業所空き情報の共有
そだつ部会	7回	障害児支援・ネットワーク
事業者連絡会	1回	職場内コミュニケーション

3. 関係機関・団体との連絡調整会議／職員の講師派遣

行政や地域の関係機関との連携、相談支援体制整備への協力のため、外部会議への参加や研修講師派遣に努めている。

国レベルから、地域の関係団体まで幅広く対応している。

会議名	参加数	参加機関等	内 容
連絡調整会議			
名東区地域包括ケア推進会議	2回	区民の代表・医療関係者・介護保険事業者の代表・区いきいき支援C・区社協・区関係課・区基幹C	部会報告・31年度事業計画
名古屋市障害者基幹相談支援C運営・調整会議	3回	名古屋市関係課・関係機関・各区基幹C	制度動向や市施策の説明、テーマ別の話し合いなど
名古屋市自立支援連絡会	6回	各ブロック代表基幹C・名古屋市関係課	地域課題の検討
東ブロック会	6回	千種区、中区、昭和区、名東区の各基幹C	市連絡会関連の報告、検討・精神障害者の地域移行・地域課題の共有、検討
愛知県障害者自立支援協議会	5回	関係する機関や団体・当事者団体の代表・学識経験者・愛知県	部会：県主催委託研修のあり方 本会：各部会報告、障害福祉計画のチェック
相談支援従事者指導者養成研修検討会	1回	厚生労働省・検討委員	国研修の内容の検討
主任相談支援専門員養成研修検討会	3回	検討委員・厚生労働省 社会福祉士会	国養成研修の内容の検討
相談支援従事者研修ガイドラインの作成及び普及事業ワーキング会議	3回	検討委員	新カリキュラムによるモデル研修の検討
講師派遣			
民生・児童委員学区協議会	4回	各学区の民生・児童委員	依頼内容に応じた障害に関する勉強会
地域団体向け制度説明	2回	介護保険事業者連絡会・児童発達支援事業所	依頼内容に応じた制度動向等に関する勉強会
名古屋市相談支援従事者研修	3回	名古屋市主催	各区基幹Cスタッフのスキルアップ
愛知県相談支援従事者現任研修	5回	愛知県主催	県内相談支援専門員の資格更新研修

愛知県 相談支援従事者 初任者研修	7回	愛知県主催	県内障害福祉関係者の相談支援 専門員資格取得研修
愛知県サービス 管理責任者等 研修	2回	愛知県主催	県内障害福祉関係者のサービス 管理責任者、児童発達支援管理 責任者資格取得研修
相談支援従事者 指導者養成研修	1回 (3日)	厚生労働省主催	各都道府県を対象とした指導者 養成研修
主任相談支援 専門員養成研修	1回 (5日)	厚生労働省委託事業	主任相談支援専門員の資格取得 研修
相談支援従事者 初任者研修モデル 研修	1回 (5日)	国庫補助事業	新カリキュラムによるモデル研修 の実施

4. 職員研修

基幹相談支援センターとしての役割を果たすことができるよう研修参加を促している。様々な障害特性の理解に加え、各分野との連携や制度理解など、テーマも広がっている。職員ミーティングを通じて、研修成果の共有にも留意した。

開催日	名称・内容
4/24	名古屋市相談支援従事者研修（初任者クラス）
4/26	愛知県障害支援区分認定調査員研修
5/14,7/25 2/18	名古屋市障害者差別相談センター研修
5/31	名古屋市障害者虐待相談職員研修会
6/16	日本相談支援専門員協会総会「ともに生きる社会の実現」
6/17	難聴・中途失聴者のための要約筆記研修
6/19,7/17 8/21,10/23 11/28,12/18 3/7	愛知県地域定着支援センター研修「地域共生社会を目指す」
7/26	罪に問われた障がい者支援を考える
9/19,1/16	名古屋市障害者差別・虐待相談センター研修
12/3	ストレングスモデル研修会
12/26	障害者虐待防止・権利擁護研修
1/14	愛知県相談支援従事者専門コース別研修（触法）
1/23	愛知県若年性認知症総合支援センター研修

指定相談事業所 はまなす

今年度は、新規での契約は1件（うち法人内利用者0件）となった。

契約者数は、前年度の149名から132名にまで減少しているが、その理由としては相談者の死去や転居、またはサービス利用の終了や一般就労によるものである。

契約者数は減少傾向にあるが、その分、相談者一人一人に関わる時間を増やすことができた。一方で、結果的に新規の計画依頼に充分に対応することができなかった。運営の面からも、個々の相談の面からも、適正な契約者数の判断が難しく、今後も課題として検討していく必要がある。

1. 契約者の内訳

【居 所】

	名古屋	日進	尾張旭	瀬戸	豊田	北名古屋	一宮	愛西	計
人数	115	9	2	2	1	1	1	1	132

(名古屋市の内訳)

	名東区	昭和区	天白区	守山区	緑区	千種区	瑞穂区	中村区
人数	75	5	10	6	7	4	2	1
	北区	西区	東区	南区	港区	中区	熱田区	中川区
人数	0	0	0	2	1	1	0	1

(住まい別)

	施設入所	グループホーム	一人暮らし	家族と同居	有料老人ホーム	その他
人数	36	16	11	67	1	1

【年齢・性別】

	児童 (～17歳)	成人 (18歳～)	計
男性	6	69	75
女性	5	52	57
計	11	121	132

【障害種別（重複障害あり）】

	身体	知的	精神	発達障害	難病
人数	18	107	16	2	1

2. 職員研修及び自立支援協議会参加状況

実施日	名称等
9/14	事業者連絡会
4/20 5/18 6/8 7/18 8/17 9/20 10/19 11/6 12/21 1/18 2/15	事務局会議（計 11 回）

サービス品質の向上を目指した取り組み

名東福祉会は、提供するサービスの品質管理を法人全体で行いたいと考えています。法人・事業所の特色を生かしながら、利用者に満足していただけるサービスの提供を目指していきます。

そのためにも、人材育成やサービス改善の仕組みは必須です。

1. 委員会

【給食委員会】

(1) 目的

提供される給食の内容を検討することにより、より安全で、品質の高い食事提供を目指す。

また、委託業者と法人が食事提供に関して共通の目標を持ち、給食メニューの見直しをおこなう。

(2) 構成

法人：本部長、栄養士、事業所支援員各1名

委託業者：エリアマネージャー1名、管理栄養士1名

(3) 活動報告

毎月第2木曜日に開催

- ・前月の給食内容（献立・提供方法など）についての検討
- ・利用者個別対応の確認（健康・食品アレルギー等の考慮）
- ・新規メニューを含めた献立の検討
- ・衛生面、感染症対応の確認

(4) 成果等

各事業所の検食簿に記載された内容を基にして、味付け、食材のバランス等、委託業者の献立作成の参考となるような話し合いをおこなうことができた。

健康面を意識したメニューを、週1回から取り入れ、ほぼ毎日提供できるまでに定着させることができた。

新規メニューについては、「リクエスト」という形で、利用者、職員からの要望を献立に反映させることができた。

2. 研修会等

【「支援リーダーのしごと」研修会】

(1) 目的

技術や知識、アレンジ力（配置する、整える力）・アドリブ力（臨機応変な対応力）など、総合的なスキルアップを図ることで、リーダーシップ力を身につけ、法人全体を視野に入れて利用者支援ができる職員を目指す。

(2) 構成

理事長、常務理事、各事業所副所長・ユニット責任者、職員

(3) 活動報告

	年月	内 容
1	H30.4	家族会について考えてみよう
2	H30.5	Oさんのケースについて
3	H30.6	ホーム1のあり方について
4	H30.7	虐待防止について考える
5	H30.8	虐待防止について考える(2)
6	H30.9	働きやすい職場について考える
7	H30.10	虐待防止について考える(3)
8	H30.11	『見える化』で魅力ある職場づくり
9	H30.12	リーダーに必要なもの(求められているもの)について考える
10	H.31.3	小寺さん(天白ワークス)の映像を見る

(4) 成果等

将来の管理者を意識しての職員育成を目的として、昨年度スタートさせた研修会であるが、2年目となる今年度は、場面、利用者を設定して、より具体的に検討することができた。虐待については、3回テーマとすることができ、一部「虐待防止委員会」としての役割も果たすことができた。

また『見える化』をキーワードとして、法人の理念についても検討し、内容について共有することができた。

【日中活動勉強会】

(1) 目 的

将来的な日中活動の内容について、長期的視点で検討する。加えて、法人内事業所の職員の交流を図るため、各事業所で勉強会を開催する。また障害に関する知識や障害福祉制度の理解のための情報提供を行なうことで、各事業所での日中活動にフィードバックしてもらおう。

(2) 構 成

各事業所希望職員・基幹相談支援センター職員

(3) 活動報告

	年月日	内 容
1	H30.7.20	昨年度の報告、バイステックの7原則、認知特性テスト
2	H30.9.21	課題解決、グループワーク
3	H30.10.19	コミュニケーションのスキル、グループワーク
4	H30.11.16	課題解決、グループワーク
5	H30.12.21	課題解決、質疑応答

(4) 成果等

基幹相談支援センターの委託終了の関係で、開催回数が少なくなりました。日中活動の内容についての検討より、各事業所の職員の交流とメンタルヘルス、課題解決に向けた考え方を共有して普段の業務に活かす、ということに比重を置いた活動となった。

3. 機関誌「WORKS」編集部

法人機関誌「WORKS」を発行。事業の紹介や制度動向、関連領域の話題を通じて、障害福祉サービスのあり方を提言していく。

法人利用者、職員、後援会員、関係団体等に配布・送付している。

No.142 (8月発行)

「医療の立場から思うこと、感じること」

「知的障害のある方に、総合支援法の改正はどう影響するか」